

14. 医歯薬学総合研究科

(1) 医歯薬学総合研究科の教育目的と特徴	14-2
(2) 「教育の水準」の分析	14-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	14-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	14-17
【参考】データ分析集 指標一覧	14-20

(1) 医歯薬学総合研究科の教育目的と特徴

医歯科学専攻（修士課程）

1. 人材養成目的

大学・学部を問わず自然科学及び応用科学等の多様な専門性を身につけた学生に対して、医歯学に関する幅広い知識と技術を体系的・集中的に教育することにより、医歯学の先端的な研究及び医療の推進に貢献し得る人材を養成する。さらに、医学、歯学の知識を併せ持つ高度な技術者など新たなニーズに応えるための人材を養成することを目的とする。

2. 教育目標

人材養成目的を実現するために、以下の教育目標を掲げている。

- 1) 高度医歯学領域の知識・技術修得を目指す教育の推進
- 2) 高度先端医療の普及及びトランスレーショナルリサーチに対応した人材の養成と研究の推進
- 3) 学際的な医歯学教育・研究の推進

生体制御学専攻、病態制御学専攻、機能再生・再建学専攻、社会環境生命科学専攻（4年制博士課程）

1. 人材養成目的

医学・歯学・薬学を基盤とし、国際社会において高く評価されると共に地域社会に広く活用される研究成果の創出を基礎として、創造性豊かな自立した研究者、研究・教育・医療におけるリーダー並びに高度な専門知識と豊かな人間性に基づく倫理観を兼ね備えた医療職業人を養成することを目的としている。

2. 教育目標

人材養成目的を実現するために、以下の教育目標を掲げている。

- 1) 医学・歯学・薬学の専門的知識と技能を結集した学際的研究の推進と教育の提供
- 2) 世界をリードする先端的・独創的研究の実施
- 3) 科学の進歩に適応しうる問題解決能力の育成と高度で幅広い知識の提供
- 4) 社会人や留学生に対応したカリキュラムの提供

薬科学専攻（博士前期・後期課程）

1. 人材養成目的

創薬を中心とする薬学及び関連分野における高度な専門知識と技能を持ち、豊かな創造力と問題解決能力を備えた、製薬及び関連企業における研究者・技術者、大学等の研究機関における教育者・研究者、医薬・衛生に関連する行政で活躍できる人材を養成することを目的としている。

2. 教育目標

人材養成目的を実現するために、以下の教育目標を掲げている。

- 1) 薬学及び関連分野における専門的知識と高度な技能の習得
- 2) 世界をリードする先端的・独創的研究の遂行による課題発見・解決能力の醸成
- 3) 豊かな人間性と国際性、高い使命観、倫理観の涵養
- 4) 情報収集・研究成果発信能力の養成

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料6414-i1-1～4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

全専攻共通特記事項

- 2018～2019年度にかけ、抽象的であった従来の学位授与方針を改訂すべく検討している。学部学生または修士院生を読者として想定し、進路を具体的に例示して養成する人材像を示すとともに、学位授与に必要な要件と獲得すべき能力を明確にしている。 [1.0]

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料6414-i2-1～4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

全専攻共通特記事項

- 2018～2019年度にかけ、学位授与方針の改訂と整合すべく、抽象的であった従来の教育課程方針を改訂すべく検討している。教育プログラムの編成方針、コースワークとリサーチワークの授業編成、学習成果の評価の方針を具体的にしている。 [2.0]

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料6414-i3-1～10）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料6414-i3-11～13）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料6414-i3-14～17）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

全専攻共通特記事項

岡山大学医歯薬学総合研究科 教育活動の状況

院で卒後臨床研修を開始した医師41名中、10名がARTプログラム大学院生であった。既に学位取得者33名（うち4名が大学教員、1名が医系技官）輩出しており、我が国の新しい研究医・教員育成モデルを確立した（別添資料6414-i3-18）。[3.2]

- コースワークは共通コア科目と専門科目からなる。前者は大学院レベルの教養教育科目「研究方法論(基礎)」(60コマから選択)・「同(応用)」(50コマから選択)と、研究基礎力を養成する演習科目「課題研究セミナー」(Critical discussionと研究中間発表)からなる。2019年度には後者のうち従来の「演習・実習」を研究実施・指導を単位化した実習科目として、従来の「講義・演習」を研究コミュニケーション力を涵養する演習科目として実質化した。専門科目では、重点領域(厚生労働省5疾患5事業)を意識した選択プログラム及び学際的選択プログラムも履修できることとした。例えばがんプロフェSSIONALコースでは、がん専門医・薬剤師共通科目や臨床腫瘍医専門科目といった人材育成目的に合致したカリキュラムを編成した。[3.1][3.4][3.5]

薬科学専攻(博士前期・後期課程) 特記事項

- 一般コースの「先端薬学特論」を2017年度に大学院レベルの教養教育科目(必修)として再編した(別添資料6414-i3-19)。[3.2][3.3]
- 分子イメージング教育コースでは、薬学領域における可視化技術に関する教育プログラムを2017年度から学内完結型に再編した(別添資料6414-i3-20)。[3.2][3.3]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料(別添資料6414-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料(別添資料6414-i4-2~5)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数(別添資料6414-i4-6)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料(別添資料6414-i4-7)
- ・ 指標番号5、9~10(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

全専攻共通特記事項

- 2017年度に、各授業の科目責任者、分担教員、日程、目的、方策などをすべての学生が理解できるよう、授業科目シラバスのウェブ化、英語化を行った。[4.3]
- 自主的にリサーチワークに着手できるよう、学生自らが研究計画を執筆し指導教員が添削する研究指導計画書を義務付け、合わせて研究指導体制を明確化し、

2019年度には医歯科学専攻(修士課程)の提出率が85.1%に達した。[4.5][4.7]

医歯科学専攻(修士課程)特記事項

- 2018年度に、国際学会発表を推奨するため「グローバルプレゼンテーション」として単位化した。[4.7]
- 2019年度に、①医歯科学を総合的に習得させるため、「人体構造学」と「口腔構造機能学」を統合して全学生が履修することとした。②学生の能動的な研究活動(実験計画、研究記録作成を含む)を「医歯科学研究」(形成的評価)として単位化した。③学生の能動的な研究発表(プログレスレポート(PR)、リサーチセミナー(RS)、学会発表を含む)を「医歯科学演習」(形成的評価)として単位化した。[4.2]

4専攻(4年制博士課程)特記事項

- 2016年度に大学院教育改革全学WGで他学系の委員よりピアレビューを受け、学位の質保証の点で中間評価法の改善を指摘された。これを受け、初期：研究指導計画書、中間期：課題研究セミナーの2段階の形成評価と、修了時：論文審査の最終評価、計3段階で研究内容を確認して学位論文の質を担保することを学務委員会から各教員に周知徹底した(別添資料6414-i4-8)。[4.1][4.7]
- 社会人が大学院生のほとんどを占めるため、就業と履修を並行できるよう、昼夜開講型講義や週末講義(14条特例)を開講している。特に、2017年度の『全人的医療を行う高度がん専門医療人養成』プログラムによる中四国地方11大学の連携開始に伴い、がんプロフェSSIONナルコースで各大学の特色を活かした新規の電子講義コンテンツが加わり、中核テーマ「高齢者がん」「ゲノム医療」「希少がん」「小児・AYA世代がん」に関する概論講義を含む計25コンテンツを新設した。各論講義についても新ニーズに対応したコンテンツへと年次毎に更新を行うことで、新たな視点から優れたがん専門医療人を育成できるカリキュラムを編成している。共通コア科目にもe-Learningによる遠隔講義の導入を拡充するため、2019年度に電子ライブラリー化を行った(別添資料6414-i4-9)。[4.1]

薬科学専攻(博士前期・後期課程)特記事項

- 国際学会発表を推奨するため、2018年度から「グローバルプレゼンテーション1・2」を開講し、延べ6名の学生に対し単位を認定している。[4.7]
- 2018年度からSGU対象(国際派遣)プログラムである「特殊講義(国際連携薬学人材育成プログラム)」をグローバル人材育成コース(薬学部)における「グローバル・スタディ2」(2単位)として認定している。[4.7]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料6414-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料6414-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料6414-i5-3～4）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料6414-i5-5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

全専攻共通特記事項

- 留学生が日本文化・日本語を理解・習得して円滑に研学生活に移行できるよう、2016年度から鹿田キャンパスにL-caféを開設して日本語レッスンを行っている。また、日本人大学院生の海外留学を促進するため、英語レッスンも行っている（別添資料6414-i5-6）。[5.1]

医歯科学専攻(修士課程)特記事項

- 就学に課題を抱える学生に対し、2018年度より専攻長、研究指導教員と大学院担当職員が連携して対応することとし、高大接続・学生支援センター 学生支援部門 学生相談室 教員から助言を得つつ、学生面談と履修指導を行った（2019年度延べ250回）。[5.1]
- 2016年度より、学生の社会的・職業的自立を図るための教育課程として、大学院レベルの教養教育科目「医歯科学概論」の中でキャリア支援特別講義（全4回）として、製薬企業の研究開発の要職にある実務家を招聘し、創薬概論、研究、開発、各論（ワクチン）に加え、企業紹介と求める人材についてもお話しいただいた。[5.3]
- 学務委員会の下に若手教員よりなる学生募集・就職支援推進部会を組織し、第3期中期目標期間では特に高大接続・学生支援センター 学生支援部門 キャリア・学生支援室 教員や大学院担当職員との連携を強化した。2018年度には、修了生との昼食会（2回）、就活ガイダンス（3回）と個別就職相談会（10回）、業種・職種・会社研究会（5回）、OB/OG forum（1回）、製薬企業研究会（1回）を開催した。[5.3]

4専攻（4年制博士課程）特記事項

- ARTプログラム履修生が円滑に履修と初期研修を両立できるよう、2016年度に「ARTプログラム推進室」を設置し、キャリアコンサルタント資格を有する学務課大学院担当付専任職員を配置してキャリアパスに関する相談を行って



岡山大学医歯薬学総合研究科 教育活動の状況

る。また、大学病院卒後研修センター医師や各診療科の指導医と連携しつつ、履修アドバイスも行っている（2018年度延べ340回）（別添資料6414-i5-7）。[5.1]

- 経済的に厳しい初年度の学費を賄うことができるよう、2019年度よりARTプログラム奨学金を入学時にまとめて貸与することとした。（利用者数：第3期中期延べ54名、研究科独自施策）[5.1]
- 育児等のライフイベントと学業の両立が可能となるよう、医療人キャリアセンターと岡山大学病院ダイバーシティ推進センターが連携し、2019年度より病児保育ルーム、一時託児等の利用を可能とした。また大学院生の妊娠時には、マタニティ白衣の貸し出しや個別相談に応じている。また、授乳や搾乳ができ、子ども連れで面談等ができるスペースを整備した。[5.1]
- 社会人がほとんどを占める学生の円滑な履修のため、ウェブサイト授業履修、研究、演習、論文審査に関する情報や書式を掲載していたが、2018年度から特別講義・講演会の日程表のダウンロード提供を開始した。[5.1]

薬科学専攻（博士前期・後期課程）特記事項

- 修学に課題を抱える学生を支援するための学生総合支援委員会の機能を2019年度から強化し、特にメンタル面に課題を抱える学生の早期支援に向けた助言・指導を高大接続・学生支援センター学生支援部門と連携して実施している。[5.1]
- 企業等で活躍する研究者や本専攻卒業生による講演会並びに企業等説明会等、学生のキャリア支援講演会を2018年度に17回開催した。[5.1]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料6414-i6-1～4）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料6414-i6-5）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料6414-i6-6～7）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

全専攻共通特記事項

- 2017年度に教務システム（キャンパススクエア）導入に伴い、授業の成績評価基準を学生が理解できるよう、すべてのシラバスをウェブ化、英語化した。[6.1]

医歯科学（修士課程）特記事項

- 2019年度に、教育課程方針に成績評価方法の方針を明示した。[6.1]

薬科学専攻（博士前期・後期課程）特記事項

- 2016年度より、学修成果を可視化・検証するためのすべての授業科目でチャトルカードを提出・返却している（提出率100%）。これにより学生の理解度把握や成績評価の妥当性担保が強化された（別添資料6414-i6-8）。[6.2]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料6414-i7-1～5）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料6414-i7-6）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料6414-i7-7～18）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料6414-i7-6）（再掲）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料6414-i7-7～18）（再掲）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

4 専攻（4年制博士課程）特記事項

- 審査委員は学務委員の投票に基づき、各学系を中心に審査委員を選出する。主査は学位申請者の所属する研究分野以外の各学系会議を構成する教育研究分野の専任教授とするなど、客観性が担保されるように配慮されている。[7.2]
- 医学系では、2017年の予備審査報告書のデジタル化に着手し、2018年度に外国人留学生への配慮、申請者と教員の負担軽減、事務手続きの効率化の3つの視点を含む基本方針を定め、2019年度に学位申請手続きの簡素化、ICT化を行った。[7.2]
- 歯学系では、2018年度から指導教授および委託教授は、原則的に主査、副査とも務めないこととした。[7.2]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料6414-i8-1～4）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料6414-i8-5）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

全専攻共通特記事項

- 優秀な国際人材を獲得するため、第3期中期中に海外19大学と国際交流協定を締結して留学生を受入れている。[8.1][8.2] (別添資料6414-i8-6)
- 2016年度より、優秀な外国人志願者を獲得するため、教育研究分野ごとに研究を解りやすく紹介した英語版フライヤーを研究分野紹介をウェブサイトに掲載した(別添資料6414-i8-7~8)。[8.1][8.2]

医歯科学専攻(修士課程)特記事項

- 複眼的視点を活かしてキャリア形成を目指す学生を幅広い領域から獲得するため、2016年度よりウェブサイトをモバイル対応とし、2017年度にはtwitterアカウントの運用を開始した(別添資料6414-i8-9~10)。[8.1]



- 2017年度から志望者と在学生・教職員が懇談する学生募集説明会を年間4回の開催とし、ラボツアーを交えて授業と研究・演習、学生生活について説明して就学生活の具体的なイメージを持たせることとした。ロールモデルとなる卒業生を招聘して講演を実施し卒後キャリアの具体的なイメージを持たせた。マッチング相談は、専攻長、学務委員会副委員長(医科学担当、歯科学担当)が個別対応する体制とした。国際交流協定に基づく留学生の受入(0-NECUSプログラム)については、選択記載項目Aに記載する。[8.1][8.2]



4 専攻(4年制博士課程)特記事項

- 一般入試、進学者選考、ARTプログラム特別入試、外国人留学生特別入試、外国人留学生海外特別入試、0-NECUSプログラム修了者外国人留学生特別入試と6種10回の入試を実施して人材確保に努め、2019年度入学者では留学生が19.1%、社会人が97.3%(留学生を除く)に達した。[8.1][8.2]
- 医学生の研究マインドを醸成し大学院へ接続する取り組みとして、2016年に医学部Pre-ART生や指導教員が「西日本医学生学術フォーラム」を結成し、岡山大学Junko Fukutake Hallで第1回フォーラムを開催した。[8.1][8.2]
- 教員に優秀な学生獲得を意識してもらうべく、2018年度より一般入試出願期間前に各教育分野に入学試験志願予定者数についての調査を行っている。[8.1][8.2]
- 優秀な歯科研究医の育成のため、岡山大学病院歯科研修医及び学部学生を対象とした大学院進学を含めたキャリアプランニング説明会を2019年度から2回開催とし、優秀な大学院生獲得に向け歯科医師のキャリアにおける専門医や学位取得の意

義・重要性について積極的に情報を提供している。[8.1][8.2]

薬科学専攻（博士前期・後期課程）特記事項

- 大学院への進学を促すため、学部1・2年生を対象に研究室での実践的実験・研究を体験できる学部早期研究教育連携プログラム「薬学研究入門」を2017年度から実施（学部での単位化あり）している（別添資料6414-i8-11）。[8.1][8.2]
- 首都圏居住の優秀な博士前期課程修了者を博士後期課程に受け入れるため、国立医薬品食品研究所（東京）と連携協定を締結した。2020年度から受入を開始する（別添資料6414-i8-12）。[8.1]
- 優秀な留学生を確保するため、成均館大学（韓国）、ミャンマー政府保健省、ハイフォン医科薬科大学（ベトナム）など連携協定を結ぶアジア諸国の教育研究機関からの留学生を積極的に受け入れている。（具体は選択記載項目Aに詳述）。[8.1]

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料6414-iA-1）
- ・ 指標番号3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

全専攻共通特記事項

- 2017年度より本研究科における国際交流推進の目的を、海外からも優秀な大学院生を戦略的に獲得し、多様な学生が教員とともに医歯薬学研究を協働で推進することで、我が国並びに相手国における高等教育と保健医療福祉の持続可能性を高めることとした。[A.1]
- 2019年度には、大学院留学生用英語資料(Student handbook for registration of class subjects and student life)等の基盤的教育資源の英訳・作製を行った。[A.1]

医歯科学専攻(修士課程)特記事項

- 岡山大学-中国東北部大学院留学生交流プログラム(0-NECUS単位互換制度)：中国東北部の4医科大学(大連医科大学、中国医科大学、吉林大学、ハルビン医科大学)から特別聴講学生を1年間受入れている(2019年度実績12名、第3期中期目標期間で都合59名)。2016年度から、優秀な留学生発掘のため、中国の入学時期に相当する秋季に若手教員を医歯学系2大学に派遣して教育研究内容と0-NECUSプログラムを周知している。この共同教育プログラムを研究交流に根ざしたものに深化させるべく、2019年度からは若手教員による公開研究セミナーも実施した。春季には教員

5名が医歯学系4大学からの志望者の面接試験を行うとともに、本プログラム修了生による生活説明を行っている（別添資料6414-iA-2～4）。[A.1]

4 専攻（4年制博士課程）特記事項

○ 0-NECUSプログラムにより修士課程に受入れた非正規留学生から優秀で意欲ある留学生を博士課程に選抜するため、0-NECUSプログラム修了者外国人留学生特別入試を実施して第3期中期目標期間中に18名を受入れた（別添資料6414-iA-5）。[A.1]

○ 屋根瓦方式による持続的な医療系高度人材獲得プログラム：インドネシアとミャンマーを対象に、相手国大学教員を大学院正規生（学位取得目的、以下「教員留学生」）として受入れつつ、学部学生を特別聴講学生（短期留学、以下「学部留学生」）として受入れている。2018年度より教員留学生による学部留学生の教育実習を単位化した。終了した教員留学生が帰国後に要職に就き、学部留学生が後に教員留学生として留学する循環型留学システムが確立した。（右図）[A.1]



○ 大学院生の研究モチベーションを高めるため、毎年1回留学生研究発表会を開催している（右写真）。2016年より、国際学会での発表と準備を「グローバルプレゼンテーション1、2」として単位化し、延べ43名の学生に対し単位認定を行った（別添資料6414-iA-6～8）。[A.1]



○ 授業英語化とe-Learning：歯学系臨床専門医コース、薬学系の成均館大学との国際連携大学院教育等で英語講義を行っていたところ、大学院レベルの教養教育科目である「研究方法論基礎」（5単位）・「応用」（4単位）」の授業の英語化の要望が強いことが判明した。2019年度は、共通コア科目のこれらの授業が英語で随時受講できるよう、英語授業の電子ライブラリー化を行った。[A.1]



○ 臨床専門医コース（歯学系）で実施している臨床研究デザインワークショップをベトナムにおいて開催し、臨床研究のデザインを組み立てる方法論、倫理審査の基礎的素養、データ解析の基礎的知識の教育とともに、レギュラトリーサイエンスとしての学問体系（観察研究や介入研究にまつわる監査やモニタリング等）についても英語で教授した。その成果をもとに2019年度文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に、ASEAN中核医療系大学と連携する「口腔器官再生・再建・統合生物学」大学院特別コースが採択された（別添資料6414-iA-9）。[A.1]

薬科学専攻（博士前期・後期課程）特記事項

- 以下の国際連携教育プログラムを実施している。①成均館大学（韓国）との連携により国際水準の教育を提供することで、グローバル感覚に優れた人材を育成し、学位（博士）の国際的通用性を高めることを目的とするダブル・ディグリー（博士）の協定を締結（2015年11月）し、2017年10月から学生1名を受け入れている。②ミャンマー政府保健省（MFDA）と同省医薬品局の若手職員並びにハイフォン医科薬科大学（ベトナム）と若手教員の博士後期課程への受け入れに関する協定を締結し、2016年度より学生計4名を受け入れている（別添資料6414-iA-10～12）。[A. 1]
- 日本語を母国語としない学生が円滑に授業を履修できるよう、授業の完全英語化に向け、2018年度から薬学系若手教員3名を協定校サン・カルロス大学（フィリピン）に派遣し、英語授業視察、英語での教育方法のスキルアップ研修とその実践のための岡山大学の最新研究成果の紹介授業実施を行った。[A. 1]
- 2018年度から海外協定校（サン・カルロス大学）からも教員と大学院学生を短期招聘し、英語での特別講義の機会を設けている。[A. 1]

<選択記載項目B 地域・附属病院との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

医歯科学専攻（修士課程）特記事項

- 地域の保健医療政策の立案や疫学研究を行う高度専門職を養成するため、地域の行政機関や病院・診療所に勤務する医師、看護師、保健師などの職業人を受け入れる公衆衛生学(MPH)コースを設定し、疫学・生物統計学を中心に網羅的な教育研究を実施している。第3期中期目標期間中に13名の修了者を輩出し地域で活躍している。[B. 1]
- 地域の中高等教育と連携した実践教育として、Super Science High School (SSH)の宿泊研修を受入れ、教員免許状を持つ修士課程学生がティーチング・アシスタントとして教員の指導下で実習準備、高校生の実習指導を行っている(右図)。2018～2019年度修了の2名が教員として就職した。[B. 1]
- 2019年度より岡山大学病院や地域病院における臨床的な課題（新興感染症、薬剤耐性菌、発がん因子解析など）に対応するため、基礎・臨床の教育研究分野及び寄



付講座の教員が連携し院生の研究課題としている。[B. 1]

4 専攻（4年制博士課程）特記事項

- 地域に根ざす研究医（Academic General Practitioner(GP)）を養成するため、文部科学省GP事業：未来医療人材育成拠点事業プロジェクト「地域を支え地域を科学する総合診療医の育成」（2013～2017年度採択）を契機に、総合内科学講座と地域医療人材育成講座が母体となって地域医療教育・生涯教育を軸に大学院教育を進めてきた。これまでに自治体や地域の医療施設のご支援により、5地域の寄付講座〈県南西部（笠岡）総合診療医学講座(2017年度)、県南東部（玉野）総合診療医学講座(2017年度)、県北西部（新見）総合診療医学講座(2018年度)、瀬戸内（まるとめ）総合診療医学講座(2019年度)、くらしき総合診療医学講座(2020年度予定)〉を開講した。各地域が抱える医療ニーズに応じて、笠岡地区では“救急連動型・諸島地域型”、玉野地区では“都市型・病院総合診療医型”、新見地区では“へき地医療型”、まるとめ地区では“回復期医療支援型”のAcademic GPの育成を行っている。各講座では地域医療の実践に加え、臨床教育・地域医療研究を進めることで、若手医師が地域医療に従事しながら継続的なキャリアアップ（学位・専門医取得）を実現する体制を構築した（別添資料6414-iB-1～2）。[B. 1]
- 従来より岡山大学病院又は岡山市立市民病院に勤務する初期研修医をARTプログラム大学院生として受け入れてきた。2018年度に厚生労働省「医師臨床研修部会報告書」で「基礎医学系の大学院に入学する医師を対象に臨床研修と基礎医学を両立するためのコース」設置が謳われた。これを受けてARTプログラムの実績が注目され、文部科学省ならびに各大学から多数の問い合わせをいただいた。[B. 1]
- 従来のPre-ARTプログラムでは、医学科学生が大学院の科目等履修生として一般コースの共通コア科目を9単位まで修めることができることとなっていた。2018年度より、さらに臨床専門医コースなど他の4コースにおいても同様の先行履修を可能とした。第3期中期目標期間中の履修学生は延べ263名であった。[B. 1]
- がんの診断・治療に特化した高度医療人材を養成するため、中四国地方等に展開する幅広い病院ネットワークを生かした教育プログラム「がんプロフェッショナルコース」を設定している。中四国地方全域の医療拠点が連携した域内統一カリキュラム（臨床研究法の理解と実践、トランスレーショナルリサーチの実践など）を実施するため、e-learning・eポートフォリオの活用、患者・家族の教育カリキュラムへの参画など、工夫ある



プログラムとなっている。(文部科学省2017年度 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン採択(別添資料6414-iB-3))。[B.1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2020年2月6日に5名の外部評価委員(うち2名は他部局教員、3名は他大学教員)を迎えて大学院教育外部評価委員会を開催し、18歳人口が大幅に減ってしまう「2018年問題」に直面する本研究科の教育プログラムの改善点を探った。1.教育の実施体制、2.入学試験、3.1.社会ニーズ・学術動向を踏まえたカリキュラム/教育プログラムの体系的な構築、3.2.学位、4.就学支援とキャリア支援、5.社会人学生・グローバル化対応に関する取り組みについて、それぞれ5段階評価と自由記述により改善のための助言をいただいた(別添資料6414-iC-1)。[C.2]

医歯科学専攻(修士課程) 特記事項

- 上記の項目3では「修了生が社会ニーズにあったキャリアを形成している」、項目4では「充実した就職活動支援プログラムの実施や企業・卒業生を招いて全学的に開催する行事が質の高い就職実績を生むと同時に他学部、他大学学生への(入試)広報に繋がっている」、項目5では「公衆衛生学コース(略)等のリカレント教育は更に社会的ニーズが高まり重要度を増す」との評価を得た。さらに、医歯科学専攻と薬科学専攻が独立している理由、学業と就職活動の両立、4年制博士課程との連携について質疑があった。[C.0]

4専攻(4年制博士課程) 特記事項

- 項目1、2、3では、長年にわたって培われた多様な社会的ニーズに応える教育プログラムの構築や学位の審査制度と質の高さなどが高く評価された。項目5でも良い評価をいただいた。今後益々少子化が進展する中で、高い志と知識・技術を有した社会人や留学生を獲得するために、海外大学との連携やリカレント教育等の更なる充実を期待する意見もいただいた。[C.0]

薬科学専攻(博士前期・後期課程) 特記事項

- 学生指導・キャリア支援(項目4)や海外からの留学生の受け入れによる教育の国際化への取り組みを始めとして(項目5)、一般的に良好な評価を得た。一方で、複数の評価委員から、博士後期課程における定員充足率の改善の必要性に関する指

摘を得（項目2）、今後の博士後期課程教育の充実に求められる課題を明確にし得た。[C.0]

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料6414-iD-1～6）
- ・ 指標番号2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

医歯科学専攻(修士課程) 特記事項

- 地域の行政機関や病院・診療所に勤務する行政職、医師、看護師、保健師などの社会人を受け入れる公衆衛生学コースを設定している。疫学・生物統計学を中心に多面的な教育を行い、自らの職業に関連した課題について研究させ修士論文を執筆させている。修了後は職業現場に戻り、公衆衛生学的視点を踏まえた地域の保健医療福祉政策の立案や疫学研究を行う高度専門職を養成している。入学者は、第2期中期目標期間中が年平均2.5名、第3期中期目標期間中が年平均4.5名と順調に増加した（別添資料6414-iD-1～2）（再掲）。[D.1]



4 専攻（4年制博士課程）特記事項

- 生涯を通じた知識習得機会を提供すべく、長期履修制度・昼夜開講型講義(14条特例)・早期修了制度等を導入している。2019年度には社会人が日本人入学者の79.5%を占め、2016～2019年度で長期履修者は7名、早期修了者は25名となった（別添資料6414-iD-3）（再掲）。[D.1]
- 岡山大学歯学部同窓会からリカレント教育推進についての要望を受け、2019年度に新リカレント教育プログラム「歯科医療従事者向け生涯教育 岡山大学歯学部で学び直す」を開講した（別添資料6414-iD-4）（再掲）。[D.1]

薬科学専攻（博士前期・後期課程）特記事項

- 生涯を通じた知識習得の機会を提供すべく、岡山県病院薬剤師会等と共催で、薬剤師・大学院生を対象とする公開講座「現代の薬学」や公開講演会を開講し、社会人リカレント教育に資するプログラムを2016～2019年度で計8回実施した（別添資料6414-iD-5～6）（再掲）。[D.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料6414-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料6414-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

医歯科学専攻（修士課程）特記事項

- 標準修業年限内修了率は、2015～2018年入学者でそれぞれ96.6%、77.8%、92.0%は87.5%であった。x1.5年内修了率はそれぞれ88.0%、96.6%、88.9%、100.0%であった。

[1.1]

4 専攻（4年制博士課程）特記事項

- 標準修業年限内修了率は、2013～2016年度入学者でそれぞれ41.4%、36.0%、42.5%、41.2%であった。x1.5年内修了率は、それぞれ66.1%、60.3%、63.3%、72.2%であった。殆どの学生が社会人であり、大学院設置基準第14条に定める特例措置並びに長期履修制度を利用する者、勤務の都合で休学する者が多く、標準修業年限を超える場合が多い。[1.1]

薬科学専攻（博士前期後期課程）特記事項

- 前期課程の標準修業年限内修了率は、2015～2018年度入学者でそれぞれ91.7%、96.6%、85.7%、90.9%であった。x1.5年内修了率はそれぞれ91.2%、94.4%、96.6%、91.4%であった。[1.1]
- 後期課程の標準修業年限内修了率は、2014～2017年度入学者でそれぞれ57.1%、37.5%、22.2%であった。x1.5年内修了率はそれぞれ33.3%、33.3%、71.4%、50.0%であった。2017年度にミャンマー保健省から交流協定に基づいて受入れた外国人留学生も、標準年限内に学位を取得した。[1.1]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

医歯科学専攻（修士課程）特記事項

岡山大学医歯薬学総合研究科 教育成果の状況

- 2017年度修了者21名では、進学者6名、就職希望者14名のうち就職者14名(就職率100%)であり、内訳は企業等13名、公務員1名であった。2018年度修了者27名では、進学者6名、就職希望者21名のうち就職者20名(就職率95.2%)であり、内訳は企業等18名、公務員1名、教員1名であった。具体的には、医薬・試薬・医療検査機器の製造業、医療系情報通信業、医療業、国と地方公共団体、中等教育に職を得た。[2.1]

4 専攻（4年制博士課程）特記事項

- 入学者の多くが社会人(医療従事者)である。2017年度修了者122名では、教員・研究者7名、学術・開発研究機関4名、医療業96名、製造業1名であった。2018年度修了者148名では、教員・研究者28名、学術・開発研究機関2名、医療業99名、情報通信業1名、その他3名であった。[2.1]

薬科学専攻（博士前期・後期課程）特記事項

- 前期課程修了後の進路は製薬と関連企業の研究・開発職が70%近くを占め、専門的研究力を活かした専門職が多かった。後期課程修了後は、大学教員、研究員や企業研究者・技術者が全体の84%を占め、知のプロフェッショナルとしての高い能力・専門性を活かし得る職種が主な就職先となっている(別添資料6414-ii2-1)。[2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料6414-iiA-1~2)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

医歯科学専攻（修士課程）特記事項

- 教育全般、コースワーク、リサーチワーク、その他に関するアンケートを継続実施し、学生満足度を追跡調査している。教育全般(4点満点)では、2016年度が2.83点、2017年度が3.56点、2018年度が3.44点、2019年度が3.50点と改善していた。
 - ・複眼的視点を持つ人材育成のため入学直後実施のインテンシブ・コースワークは、満足度が高い。医歯科学関連の学部教育を受けた学生は、物足りなさを感じた。
 - ・特色ある実習科目「人体解剖実習」は、倫理面も含め高い評価を得た。
 - ・リサーチワークでは、一部例外を除き、教員あたりの学生数が適正で、十分な研究指導と学生支援が受けられた学生から高い評価を得た。
 - ・他組織、実務家との連携による就学・キャリア支援が高く評価された。[A.1]

4 専攻（4年制博士課程）特記事項

- 教育全般(4点満点)では、2016年度が3.0点、2017年度が3.02点、2018年度が2.98

点、2019年度が3.50点であった。個別意見から、次のように推察される。

- ・ 講義を選択履修可能な点、週末の集中講義が高い評価を得た。
- ・ 医療統計学では多様な分野の専門家から多彩な講義があり高い評価を得た。
- ・ 研究方法論を選択履修でき、自分の研究に直結する内容を学習できた。[A.1]

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料6414-iiB-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017～2018年度の4年制博士課程修了者198名を対象とし、ディプロマ・ポリシーに沿って教育の達成度について意見聴取した。81名から回答が得られ、肯定的に回答した者は、「高度な専門知識と技能を幅広く身につけている」では87.6%、「学術、研究領域の情報を自ら収集・分析し、適切に活用・情報発信できる」では83.9%、「生涯に亘って医学・歯学・薬学の発展に寄与する高い学習意欲を持ち、研鑽を積むことができる。」では84.0%と自己評価が高かった。しかし、「自己の専門分野をもって社会をリードする行動ができる」では76.5%と他項目よりやや評価が低かった。課程修了後日が浅く、今後も研鑽が必要と自覚した者が多かったと考えられる。[B.1]

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料6414-iiC-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017～2018年度の4年制博士課程修了者を対象とし、ディプロマ・ポリシーに沿って教育の達成度について就職先の指導医等から意見聴取した。32名から回答が得られ、肯定的に回答した者は、「高度な専門知識と技能を幅広く身につけている」、「学術、研究領域の情報を自ら収集・分析し、適切に活用・情報発信できる」、「生涯に亘って医学・歯学・薬学の発展に寄与する高い学習意欲を持ち、研鑽を積むことができる」のいずれも96.9%と評価が高かった。しかし、「自己の専門分野をもって社会をリードする行動ができる」では87.5%と他項目よりやや評価が低かった。指導医等の評価は、修了生の自己評価よりもいずれの項目でも高かった。[C.1]

岡山大学医歯薬学総合研究科

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。